英国における現地理解教育の実践

前ロンドン日本人学校　教諭
群馬県藤岡市立藤岡第一小学校　教諭　小　西　啓　吾

キーワード：現地校交流、小学校の英語、総合的な学習の時間、現地理解教育

1．はじめに

本校はロンドン西部に位置し、小・中併設の学校である。特色としては、小中併設校の良さを生かした縦割り活動や運動会、文化祭などの行事が挙げられる。また、週 3 回の英会話や英語学習、現地校との交流など現地理解教育にも力を注いでいる。本稿では、私が在籍した平成23年度~26年度に行った 4 年間の現地理解教育に関わる実践の一端をここに紹介する。

2．現地校交流における実践

現地校交流は、直接異文化に触れ理解することのできる貴重な場であり、同時に日本の文化を見つめる機会となる。また、言葉や文化、風習などが異なる人々との触れ合いを通して、お互いを理解し合い、同じ人間としてのつながりをもつことができる場ともなる。本校では、各学年とも基本的に同一の交流校において訪問と来校を行っている。平成25~26年度には、「外国語を中心とした実践的コミュニケーション能力の育成」を研究主題に掲げ、現地校交流での活動内容をより充実させるために、英会話の授業改善と年間計画の見直しを行った。

平成25年度は、学級担任が学年毎に計画し実施していた現地校交流の取組を、系統性をもたせるため年間計画に位置付け、総合的な学習の時間の一環として編成した。また、現地校交流を日頃の英会話学習の成果を発揮する場と捉え、英会話と総合的な学習の時間のための事前打合せをする時間を設定し、学級担任と英会話教師が連携し、共通理解を図りながら指導を行った。平成26年度においては、さらに研究を進め、現地校児童との交流において、双方向のコミュニケーションが活発になるような活動内容の工夫や、積極的に「話すこと・聞くこと」ができるような英会話フレーズ集を作成し活用した。

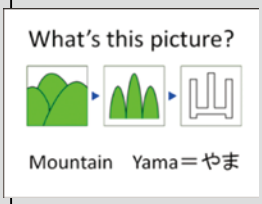
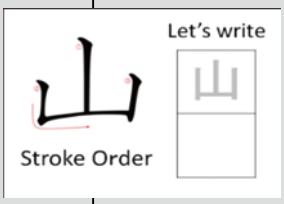
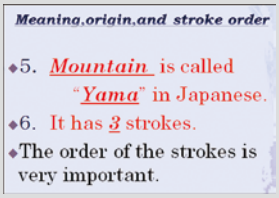
(1) 実際の取組（小学部 4 年）

平成24年度の取組では、食に関わる日本文化の紹介と習字体験を中心に交流を行った。英会話の授業とは連動せず、学級担任が学活等を使って、日本の文化について調べさせたり、交流で必要と思われる英語表現を指導した。一方、校内研修として進めた平成26年度の取組では、英会話教師との打合せの時間を確保し、以下に示すような指導計画を作成し、改善を図った。また、現地校児童と双方向のコミュニケーションが図れるように、協同学習を取り入れた。

(2) 指導計画（全18時間）

〈習得型学習〉国語科　：2 時間　　英会話　：3 時間
〈活用型学習〉総合的な学習の時間　：9 時間
〈探究型学習〉現地校交流　：4 時間

時	教科・領域	目標	主な学習活動
1	国語科（1） 〈習得型学習〉 「漢字の成り立ち」	・　象形からなる漢字の成り立ちを理解することができる。	・　象形からなる漢字の成り立ちについて漢字辞典を使って調べる。
2	総合的な学習の時間（1） 〈活用型学習〉 「現地校交流をしよう」	・　交流の活動内容を理解することができる。	・　交流の活動内容を知る。

3	国語科（2） 〈習得型学習〉 「提示資料の作成」	・　漢字の意味や成り立ち、筆順を説明するための提示資料を作成することができる。	・　例を参考に提示資料を作成する。
4	総合的な学習の時間（2） 〈活用型学習〉 「英語表現を練習しよう」	・　漢字の意味や成り立ち、筆順を説明するために必要な英語表現を知り、覚えることができる。	・　漢字の意味や成り立ち、筆順を説明するために必要な英語表現を知り、練習する。
5	英会話（1）合同 〈習得型学習〉 「英語表現を練習しよう」   	・　漢字の意味や成り立ち、筆順を英語で説明することができる。	・　英会話講師と一緒に英語表現の発話練習を行う。 ・　習熟度別に分かれて、英語表現を習得する。
6	総合的な学習の時間（3） 〈活用型学習〉 「英語表現を練習しよう」	・　習字の道具や書くときに必要な英語表現を知り、覚えることができる。	・　習字の道具や書くときに必要な英語表現を知り、練習する。
7	英会話（2）合同 〈習得型学習〉 「英語表現を練習しよう」	・　習字の道具や使い方を英語で説明することができる。	・　英会話講師と一緒に英語表現の発話練習を行う。 ・　習熟度別に分かれて、英語表現を習得する。
8	総合的な学習の時間（4） 〈活用型学習〉 「英語表現を練習しよう」	・「漢字連想クイズ」の解答について英語で話し合うことができる。	・「漢字連想クイズ」での話合いに必要な英語表現を知り、練習する。
9	英会話（3）合同 〈習得型学習〉 「英語表現を練習しよう」 	・「漢字連想クイズ」の解答について英語で話し合うことができる。	・　英会話講師と一緒に英語表現の発話練習を行う。 ・　習熟度別に分かれて、英語表現を習得する。
10	総合的な学習の時間（5） 〈活用型学習〉 「英語表現を練習しよう」	・　交流の各場面で使用する主な英語表現を覚えることができる。	・　当日の流れを確認し、交流で使用する簡単な英語表現を知り、練習する。
11	総合的な学習の時間（6） 〈習得型学習〉　合同 「英語表現を練習しよう」	・　漢字の意味や成り立ち、筆順を英語で説明することができる。	・　英会話講師と一緒に英語表現の発話練習を行う。 ・　習熟度別に分かれて、英語表現を習得する。
12	総合的な学習の時間（7） 〈活用型学習〉 「自己紹介カードの作成」	・　自己紹介カードとウェルカムカードを作成することができる。	・　例を参考に自己紹介カードとウェルカムカードを作成する。
13	総合的な学習の時間（8） 〈活用型学習〉 「現地校と交流しよう」	・　これまでの学習を生かし、英語を使いながら積極的に活動することができる。	・　当日の活動の流れを復習する。 ・　当日の活動を想定し、当日の交流で使用する英語表現を確認する。
14 ～ 17	現地校交流 「現地校との交流」 〈探究型学習〉	・　これまでの学習を生かし、積極的に英語を使いながら活動することができる。	・　あいさつや自己紹介を行う。 ・　漢字の意味や成り立ち、筆順を説明したり、「漢字連想クイズ」の問題についての解答を話し合ったりする。 ・　習字の学習を一緒に行う。
18	総合的な学習の時間（9） 「交流の振り返り」 〈活用型学習〉	・　これまでの学習を振り返り、自らの取組を自己評価し、これからの英語学習に意欲をもつことができる。	・　現地校交流に向けての取組と当日の取組を振り返る。

(3) 当日の流れ

時間（場所）	活動内容	活動の様子など
2 校時（体育館）	到着 歓迎会 活動 1 ペア作り	・実行委員が司会　　・日本のお正月について説明した。 **パートナー探し（アイスブレイキング）** ・相手校に十二支カードを配付し、絵合わせでパートナーと対面した。 ・グループごとに自己紹介を行った。
中休み（校舎内）	学校案内	・4 年教室隣の多目的教室に荷物を移動させ、パートナーに学校を案内した。
3 校時（体育館）	活動 2	**漢字の学習（日本文化の紹介）** ・実行委員が漢字の学習についての概要を説明した。 ・英会話クラスごとに分かれて漢字の成り立ちや意味、書き順を教えた。 ・パートナー以外の現地児童にも説明をした。 **漢字連想クイズ（コミュニケーションを図る協同学習）** ・パートナーと相談しながらクイズの答えを考えた。
4 校時（各教室）	活動 3	**習字体験（日本文化の紹介）** ・各クラスで実行委員が習字の道具や簡単なマナーや作法を説明した。 ・パートナーに習字の書き方の説明をした。 ・出来上がった作品は紋切の模様を付けた台紙に貼ってプレゼントした。
昼食（各教室）	昼食	・各教室で一緒に昼食を食べた。
昼休み（体育館）	活動 4	**お正月遊び体験（日本文化の紹介）** ・お正月遊び（羽根つき、福笑い、お手玉折り紙、コマ回し、けん玉、メンコ）
清掃（各掃除場所）	清掃	・各清掃場所に分かれて、一緒に清掃をした。
5 校時 （体育館）	活動 5	**交流会**　・ソーラン節の披露　　・6 グループに分かれて大縄跳び ・記念撮影　　・花道を作り、見送り

3．その他の実践

(1) 社会科における実践（小学部 4 年）

小学部 3・4 年生の社会科では、自分たちの住んでいる地域の様子や働く人のくらし、くらしを守るいろいろな活動などについて調べたり考えたりする学習が中心となる。そのため全国版の教科書の他に、英国の様子を理解するために「わたしたちのロンドン」という副読本を派遣教員全員で協力して作成し、活用している。

4 年生では、単元「火事からくらしを守る」、「水はどこから」、「ごみの処理と利用」、「県の広がり」などの学習で副読本を使い、日本と比較しながら理解を深めていった。また校外学習としては、イーリング地区にあるアクトンファイヤーステーション（Acton Fire Station：消防署）やロンドンの中心街にあるトランスポートミュージアム（London transport museum：交通博物館）の見学を行った。日本の教科書を中心に据えながら英国にある環境・施設での学習は、異なる環境・文化であるが故に難しい面もあるが、実際に英国の学習素材に触れ、日本との差異を意識しながらも共通点を見出すことで、社会科の学習内容を深めることができた。

①アクトンファイヤーステーション（消防署）見学

「火事からくらしを守る」について学習するために、アクトンファイヤーステーションに見学に行った。消防署に出かける事前学習として、全国版の教科書や副読本を使い、消防署の中の様子や消防士さんの仕事内容について日本と英国について比較を行った。施設・設備など消防署内は類似している点が多いが、防災システムや連絡体制（日本では、火事は 119 番、警察は 110 番。ロンドンでは、消防、警察、救急に関する緊急事態の場合に通報する番号はすべて 999 番）では異なる点があることがわかった。さらに詳しく調べるため「消防車は何台あるのか」「消防車の種類はいくつぐらいあるのか」「消防署で働いている人は何人いるのか」「消防署で働いている人は普段どんな訓練をしているのか」「防火服にはどんなひみつがあるのか」など、知りたいことを出し合い、質問としてまとめ

消防車について説明を受ける児童たち

た。

当日は、見学開始からわずか10分で、火災により消防士さんが緊急出動してしまうという緊急事態にも遭遇したが、20分後には消防士のみなさんが消火活動から戻り、見学を再開することができた。水そう付きポンプ車の見学や放水体験、施設見学では、仮眠室やトレーニング室、家事室などの普段は見ることのできない部屋を見学することができた。

②トランスポートミュージアム（交通博物館）見学

「県の広がり」において、ロンドンの交通網の様子を学習するために、地下鉄に乗り、トランスポートミュージアムに見学に行った。事前学習として、副読本を利用して英国における交通の移り変わりについて学習した。英国は昔から馬車がさかんに使われており、乗り合い馬車（今のバス）が走っていた。そしてレール上を走る馬車鉄道からトラムやバスが走るようになる。また、1863年に世界で初めて地下鉄が走ったことなどを調べていった。

館内では、案内や説明が英語で書かれているため、5・6名の班に1名は英語の堪能な子どもを翻訳係とし、班員に説明を行わせた。1800年から現代までのロンドンの交通のことがわかるようになって、「地下を蒸気機関車で走ると煙がこもって大変だったこと」「女性専用車両があったこと」「世界最初の地下鉄はロンドンの環状線であり、線路が通る周辺には住宅などが立ち並んだこと」など、地下鉄によって英国の人々のくらしが変わっていた様子なども学習することができた。

(2) 修学旅行（中学部２年）

修学旅行では、6月に4日間の日程でイングランド中部やウェールズ地方を訪れた。事前学習では、「産業革命と奴隷貿易」を中心に調べ学習を行った。英語の授業ではキング牧師の演説を読み取り、道徳では生きる権利を考え、技術では蒸気機関の仕組みを学習するなど、各教科と関連させながら準備を進めた。

カーナフォン城にて記念撮影

産業革命発祥の地マンチェスターでは、科学産業博物館において蒸気機関の見学を行い、リヴァプールでは海洋博物館を訪れ、産業の発達とともに行われた奴隷貿易について理解を深めた。一方、大自然ウェールズ地方では、カーナフォン城、スノードン登山鉄道、世界遺産のポントカサルテ水道橋などを見学し見聞を広げるなど、恵まれた環境を生かした有意義な修学旅行となった。

(3) 職場体験学習（中学部２年）

「働く喜びや苦労を知り、将来に向けた職業観の形成をはかること」をねらいとして学習を行った。ロンドン市内および近郊の日系企業を中心に22事業所に職場体験学習の協力を依頼した。学習では、職場体験でお世話になる事業所の規模や沿革、仕事内容について調べたり、質問事項を考えたりして、生徒一人ひとりがテーマをもち学習を進めた。職場体験は1月中旬の2日間で実施した。体験後は、事業所ごとにパワーポイントで編集しながらまとめ、1月下旬には授業参観において保護者へ報告を行った。以下に生徒の感想を掲載する。

私はこの2日間で、一つの会社でもたくさんの仕事があって、たくさんの人が関わり一つの会社が成り立っていることを知りました。会社には日本人だけでなく外国の方もたくさんいて、英語で全てコミュニケーションをとっているのがとてもかっこいいと思いました。将来、今のロンドン生活で学んだ英語力を生かせればいいと思いました。働くということは自分のためだけでなく、人のためになることだということを実感した2日間でした。今回の職場体験で、会社がどのようなものなのか少しわかった気がします。そして将来を考えるきっかけになりました。

4．おわりに

本校では、先生方が児童生徒の意欲を高める工夫を凝らし、現地校交流をはじめ多くの現地理解教育を進めて

いる。これは本校へ通う児童生徒のみならず、そこに関わる私たち教師にとっても、貴重な財産となった。

人は人と触れ合うことで磨かれていく。特に異なる文化的背景をもっている人との交流は、多様な価値観に触れ、日本人や日本の文化について見直す貴重な経験となることを身をもって感じることができた。

今後はこの経験を糧に、子どもたちが異文化に対して理解を深め、異なる文化をもつ人々と共に協調して生きていけるよう国際理解教育に力を注いでいけたらと思う。